

早生樹の共同研究に関する協定締結式を開催しました

仙台森林管理署

平成30年3月13日(火曜日)、仙台森林管理署において、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場長、宮城県林業技術総合センター所長及び株式会社村井林業代表取締役が出席し協定書に署名しました。

森林・林業のお膝元である農山村地域では過疎化・高齢化が著しく、その上、長期にわたる木材価格の低迷も加わり、森林所有者の経営意欲の低下が懸念されている状況です。

このような中で早生樹は、スギなどに比べ成長が早いので、保育の手間が少なく、投資の回収期間が短くなり、所有者にとって経営コストの削減が期待できます。

このため、伐採期間が短い「早生樹」について4者で共同研究を行い、宮城県の気候風土及び用材・薬用利用に適した早生樹造林における技術的課題の検討を行うこととしました。

植付けする樹種は4種です。

- ・ 広葉樹:キハダ(薬用)、ユリノキ(合板、楽器)、シラカンバ(家具)
- ・ 針葉樹:コウヨウザン(合板、家具)

共同研究の主な内容は、次のとおりです。

- ・ 保育方法(下刈、除伐等)の検討
- ・ 気象データ(気温、風速等)及び実証データ(樹高、根元径・胸高直径、枯死木数等)の収集
- ・ 伐採木の強度測定



左から仙台森林管理署長、宮城県林業技術総合センター所長、東北育種場長、(株)村井林業代表取締役



気象データ収集のための機材